

NPO法人 女性と子とものエンパワメント関西

NEWS LETTER

第20号

2006.11.27

目次

田上時子のエッセイ 自由と責任 —自由の達人になるために—	1
特集 田上時子さんインタビュー 「境界線」-加害者にも被害者にもならないための鍵	2~3
活動報告 2006 年度定例総会報告/事務局体制変更のお知らせ/記念イベント「社会教育における行政と市民の協働のカタチ」浮穴正博さん	4
大阪府男女共同参画活動事業 助成決定! 「CIRCLES」/親学習 大阪府親学習リーダー養成講座・企業連携講座/大阪府こどもエンパワメント支援事業	5
リレーエッセイ 熊谷恵利子/難波マズミ	6
講座インフォメーション	7
会員の紹介・入会のおさそい	8
編集後記	8

田上時子のエッセイ 自由と責任

—自由の達人になるために—

日本ハム SHINJO (新庄剛志外野手) が日本一から一夜あけた 10 月 27 日、札幌ドームで会見した。

「体力の限界があっても頭の限界はない。これからは頭のトレーニングをして、自由に活動したいと思っている」という言葉が妙に印象に残った。34 歳で体力の限界という理由で引退せねばならないとは何とも厳しいプロ野球の世界よ、と想像すると同時に、それを機に脳を・心を鍛えて更なる新しい世界に挑もうという姿勢に好感を持った。

自由とは、誰からも支配されることなく、何事にも邪魔されることなく、あなたがあなたの意のままにあなた自身の人生を生きることだ。心が解き放たれた状態ほど幸せの気分を味わえることはない。

自由と責任は両立しないと言う人がいる。自由は「わがまま」に、「自己中心」に繋がると言う人がいる。

むしろ逆だ、とわたしは考えている。「日本人なんだから」「男のくせに」「女だてらに」という「ねばならない」から解き放たれているのだから、他人を自分の考えや価値観で縛ろうとはしない。他人を支

配しないし、他人から支配されたいとも思っていない。「我」はあるが、我が過ぎるようなことはない。そして、周囲の意見に従うのではなく、自分自身が選択しているのだから、自然に自分の行動や考えや感情には責任を持たざるをえない。

自由の達人はここにもいる。黒柳徹子さんの母堂黒柳朝さんは著書『チョッチャんは、もうじき 100 歳』で次のように話されている。

「人生に遅いということないの。そのときどきで、どんどん考え方を変えていけばいいし、やめてもやめなくてもいいの。だって、人生なんて、これっていうキマリなんてないんだもの。その人流にやればいいんです。楽しい友だちを持って、自分らしく暮らす。これが一番いいんです」。

チョッチャんはこの本が刊行する目前、96 歳にあと少しという時に逝かれた。合掌